地方交遊録第三回~名高き数々の城~

今回は武将とお城の話をします。これまでかなりの都市を訪れましたが、どの街もお城を中心とした都市計画の下にきっちりと街が形成されています。そもそもお城は「如何に敵の襲撃をかわすか」で作られているのですから、平城であれ山城であれ当時としては最も攻めにくい場所に築かれたはずです。ですがそれだけではありません。そこを根城とする時の権力者の権威を示す象徴でもあったのです。ですから石垣に関しても、どこからこの様な大きな石を運んできたのか、それを運ぶのにどれくらいの人足が集められたのかなど、想像を絶するものがあります。如何に当時の建築技術が優れていたとはいえ、あの様な高さの荘厳な建物が如何にして作られたのかは不思議な事です。



「風林火山」の軍旗を用い、無敵と呼ばれた騎馬軍団を率いた

平城といえば、上に写真を掲載しました「お館様」こと武田信玄が甲府に築いた「躑躅ケ崎館(つつじがさきやかた)」が代表格でしょう。ライバルである上杉謙信との川中島の決戦は、名勝負として今なお語られています。そしてこの時代に天下統一を狙っていたのが、尾張の織田信長です。彼は生涯に沢山の城を築きましたが、なかでも山城の代表格としては「岐阜城」があります。天守閣から見下ろす長良川は格別のものです。もう一つの代表格といえば、「独眼流」こと伊達政宗が築いた仙台の「青葉城」でしょう。ここは城もさることながら武将の人気が凄くて、少し霞んでみえます(独眼流にもじった訳では無いです)。

これらの城は合戦の作戦上から築城されたものではありますが、都市計画を睨んで築城されたのも沢山あります。その代表格は、肥後の「熊本城」でしょう。細川一族によって守られてきたこのお城は、現在もなお街の中心としての役目を担っています。 九州へ来ましたので「小倉城」も紹介しておきます。決して大きくは無いのですが、夕日に映えたその姿はかなりのものですよ。 小生は気に入っているお城の一つに数えています。

まだまだ紹介したいのですが、きりがありませんのでこの位にしておきます。一つ一つにそれを築城した城主の好みやこだわりが見受けられ、二つとして同じものはありません。しかし石高の大きな大大名は、荘厳ではありますが時の権威を見せびらかす様なものが多く、少しやりすぎだなと感じることが少なくありません。誤解の無い様に言っておきますが、素晴らしいものも多く名城には違いないのですよ。但し小生には、石高の小さな小藩にこそ、その思いを込めた名城が多いように思われます。限られた予算の中で如何に独自の城を作るかという気概、心意気を感じるのです。幕府から押しつけられる仕事で火の車であった地方の小藩にとって、メンテナンスをするのは大変だったでしょうね。でも地元に帰った時にほっと一息つける最高の安らぎの場所だったのではないでしょうか。小生も仕事が片付いて帰りの便までの待ち時間を利用して訪れる事が多いのですが、石垣や庭園を眺めて歩いていると出張の疲れがすっ飛んで行きます。

最後に番外編として、函館の「五稜郭」も加えたいですよね。残 念なことに、これは昨今のブームでもある新撰組の「土方歳三」の 終焉の場所としての方が有名になってしまいました。

これからも出来る限り講演会やセミナーで地方の街を訪れて、 城やそこに君臨した武将達にも挨拶をしたいと思っています。戦 国武将全員に挨拶出来たら、小生の地方交遊録もたいした物にな

りますよね。出来 れば外国の城まで も手を伸ばしたい ものです。そうな るように応援の程 をよろしくお願い 致します。



スコットランド動乱の歴史を語る断崖の城、エディンバラ城。訪れてみたいですね……

株式会社ジャパン・アセット・アドバイザーズ 代表取締役 南一弘

このニュースレターのバックナンバーはホームページでご覧になれます。http://www.j-a-a.com/ 禁無断転載 ©Japan Asset Advisors Co.,Ltd. All Rights Reserved. 本誌に含まれる将来の予想に関する記載内容は現時点における情報に基づき判断したものであり、今後の動向や法改正により変動することがあり得ます。従って、数値、条件等の真実性、正確性を保証するものではありません。



2014年5月号 vol.12

株式会社ジャパン・アセット・アドバイザーズ

〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町三丁目 3 番地 4 サンクス神田駅前ビル 2 階 TEL: 03 (5207) 9231 FAX: 03 (5207) 9232 http://www.j-a-a.com



南一弘の視点

システムからして機能不全

最近は日本の現状に対して嘆く事ばかりで辛くて嫌になってくるのですが、その原因はあらゆるシステムが機能不全に陥ってしまっている事ではないでしょうか。個人的な話で申し訳ないのですが、最近我が家でも受験と就活の問題が起こりました。この二つは人生の数ある選択の中でも非常に大きな問題であり、したがってそのシステムは非常に重要となるはずです。しかし現在の日本のシステムは完全にグローバルに取り残されてしまっており、時代遅れにさえになっているのです。今回この問題を取り上げるのは、米国で経験したことが余りにも我が国とは違うため、考えさせられたからなのです。



受験と就 活、問題の本質 は全く同じです。目指す大学、 又は目指す会社 に入れた事はま ず、高校あるい

は大学生活がそのための予備校となってしまうのは本末転倒で す。この議論は昔からなされていますが全く改善されることは無 く手も付けられていません。その年齢に応じてしっかりと学ぶべ きことを学ばせるシステムがどうして作られないのでしょうか。

高校に入学した瞬間から良い大学を目指して勉強する。これに 異論を唱えるわけではありませんが、重要な事はそれが充実した 学園生活を終えた結果としての事であり、大切な事は今日や明日 を精一杯生きていると感じさせてあげる事でしょう。入学試験の 点数だけを考慮してその人間の進路を決める、このシステム自体 に問題があると考えるのです。米国にはスーパー高校生という面 白い言葉があります。それは学校の成績だけでなくスポーツだけ でもなく、地域の住民の一人として如何に生きているか、その年 齢にふさわしい人間としての生き方を如何にしているか、をクリ アした者への称号です。 人として如何に生きるかはボランティア活動などもその一環でしょうが、重要な事はこれらを正当に評価できるシステムが国にあり、それをきっちりと運用出来ているかです。入学試験の点数よりも学業と、そして一人の人間としての評価が合格基準となるシステム。これって本当は当たり前の事ですよね。日本で問題になっている事の多くは、若者が社会の一員としてその役割をきっちり果たしているのか、という事です。それを測るシステムがおかしいのですから、出来る訳がありません。

就活もそうです。現状では大学に入るや否や、就活が始まります。ですから大学生活のほとんどが就活の為に費やされます。ゆっくり勉強などしている時間はありません。おかしな話ですが、学生よっては三年生の始めに就職が決まる者もいるのです。これは企業が学生に学業成果など全く求めていないという事でしょう。大きくはみ出す事の無い平均像を探しているのです。

大きな目標を立ててそれに果敢にチャレンジするには、日本 のマーケットでは合わなくなっているのでしょう。ですからその 様な若者のニーズは国内に無いのかもしれません。これはプロス ポーツの世界も同じですね。話を米国に戻しますが、学生は自ら 個人の学業成果を持って自分の希望する企業に自分自身を売り 込みに行きます。もし企業の需要と合えば、まずは試験的に一定 期間働きます。もちろん無料奉仕であり、この期間をインターン と呼びます。この期間で企業が認めれば、そこで卒業後に本採用 となるのです。個人の努力とやる気が総てを決めますし、何より そこにはお互いの徹底したディスカッションがあります。どれだ け学業を頑張ってきたか、それが採用のポイントなのです。これ も当たり前の事ですよね。もし感心している我々がいるとしたな ら、我々の環境が少しずれているのです。ずれたシステムから始 まりますから、その後も納得の行かない事ばかりです。遅くはな いのですから、一度これらのシステムを考え直しましょうよ。福 祉の問題もさることながら、これから国を背負って立つ若者も大



事ですよ。さもないと未来 は明るくありません。

このニュースレターのバックナンバーはホームページでご覧になれます。http://www.j-a-a.com/ 禁無断転載 ©Japan Asset Advisors Co.,Ltd. All Rights Reserved 本誌に含まれる将来の予想に関する記載内容は現時点における情報に基づき判断したものであり今後の動向や法改正により変動することがあり得ます。 従って、数値、条件等の真実性、正確性を保証するものではありません。

TOPICS JAA トピックス

【雑誌記事掲載情報】

1. 「月刊プロパティマネジメント」の特集記事に、不動産仲介の国内有力事業者として取り上げて頂きました

業界誌「月刊プロパティマネジメント」(発行元:綜合ユニコム株式会社) 2014 年 5 月号では、巻頭特集に法人向け不動産売買仲介業を取り上げています。日本の不動産投資市場、現在は好調と言われていますが、変化の波が激しい市場であるがゆえに、仲介に携わるプレーヤー達は常に危機感を持ち次の手を考えなければなりません。今回は、業界環境を俯瞰するインタビュー記事と、有力各社の取り組みを特集したケーススタディー記事に、弊社を取り上げて頂きました。弊社のこれまでの取り組みや強みとしている分野について、じっくりお話させて頂きました。ぜひご一読ください。



なお、本記事は当社 HP からもご覧いただけます。(http://www.j-a-a.com/news.php)

2. 「不動産経済ファンドレビュー」2014年5月5日号に、弊社代表のインタビュー記事を 掲載して頂きました

隔週発行の「不動産経済ファンドレビュー」(発行元:株式会社不動産経済研究所) 2014年5月5日号において、弊社代表のインタビュー記事を掲載していただきました。こちらでは現在の日本の不動産市場の見通し、国内外投資家からの生の声、そして老朽化ビル再生事業の具体的な内容などをお話させて頂きました。

なお、本記事は当社 HP からもご覧いただけます。(http://www.j-a-a.com/news.php)

【講演会情報】

沖縄県不動産コンサルティング協議会主催の自主研修会にて講師を務めました。

平成 26 年 3 月 18 日、沖縄県不動産コンサルティング協議会により開催された「自主研修会」にて、弊社代表が講師を務め させていただきました。

沖縄県不動産コンサルティング協議会は、不動産コンサルティング中央協議会の地方協議会であり、不動産コンサルティン



グ制度の普及推進を目的に設立された公益社団法人です。不動産仲介においても老朽化ビル等の 再生事業においても、お客様お一人お一人ごとに異なるきめ細やかなコンサルティングを得意と する弊社は、研修会講師という形で度々お手伝いさせて頂いております。

この日は80名にも及ぶ沖縄の不動産プレーヤーの皆様にお会いすることが出来ました。講義では不動産マーケット30年のトレンド解説、金融商品としての不動産のとらえ方、それを沖縄の不動産に当てはめるとどうなるのか、等をお話させて頂きました。

本年度は地方を精力的に訪れ、営業活動や講演活動等を通じて地元の皆様との交流を深めてゆき たいと考えております。講師のご依頼等はいつでも喜んでお引き受けしておりますので、お気軽 にご連絡ください。

このニュースレターのバックナンバーはホームページでご覧になれます。http://www.j-a-a.com/ 禁無断転載 ©Japan Asset Advisors Co.,Ltd. All Rights Reserved. 本誌に含まれる将来の予想に関する記載内容は現時点における情報に基づき判断したものであり、今後の動向や法改正により変動することがあり得ます。 従って、数値、条件等の真実性、正確性を保証するものではありません。

新・マーケットからのメッセージ

第6回 アベノミクスの検証と 2014年

【第1の矢:大胆な金融政策:黒田バズーカの1年を振り返る】 雇用⇒◎ 株価・為替⇒○ 日銀バランスシート⇒×

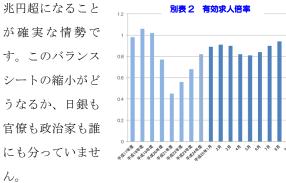
アベノミクスの第一の矢の顔として登場した黒田日銀総裁が 自ら「異次元金融緩和」と呼ぶ金融政策を昨年4月4日に発表し たことで、円安・株活況効果がありました。しかしその効果も、 実態が長期株安・円高持続を予想して組まれていた空売り(ショ ートポジション)の反動であったため、2014年までは続きません でした。現在も、アベノミクスで円安・株高を予想して組まれた



ポジションの整理 局面継続中と思わ れます。

一方、「異次元金 融緩和」の効果が最 も表れたのは雇用 で、有効求人倍率は

別表 2 の通り 6 年ぶりに回復した 1 倍台を昨年 11 月から維持しています。しかしこの量的緩和により日銀バランスシートは 300



【第2の矢:機動的な財政政策】

国土強靭化(大規模公共事業) ⇒× 消費税 8%へ増税⇒×

東日本大震災後、災害に強い国づくり(国土強靭化)の名の下に、自民党お得意の大規模公共事業のばら撒きが再開しました。 海底が水流で抉られて、実効が定かでない高さ 18m の防潮堤は、建築時は国の予算ですが完成後は自治体に引き渡されます。高齢者比率の高い漁村などで維持管理費が捻出できるはずもありません。高台移転も住民の意見が割れて遅々として進みません。国土強靭化は、久し振りに甘い汁を吸いたい自民党議員の食物に過ぎません。

又、復興特別税に次ぐ消費増税は8%で終わるのではなく、今 秋には10%への増税判断が待ち構えています。増税して財政が良 くなると思っている人は財務省の思う壺です。増税すると増収分 を見込んで予算要求が必ず増えます。増税してしまうと、今まで

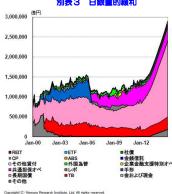
の断り文句が使えません。結果、財政の改善は実現できないとい うのが真実なのです。

【第3の矢:民間投資を喚起する成長戦略】 規制緩和⇒× 投資促進⇒×

これこそがアベノミクスの致命的問題点で、全く策がないの です。規制緩和は「規制こそ利権の源泉」と考える官僚と組んだ ら絶対に実現しません。この規制緩和が進まない限り、海外から の投資促進も盛り上ることはありません。株式譲渡税 10%の時限 立法も財務省に言われるままに20%に倍増させました。日本郵便 が独占する信書自由化も20万ヶ所以上のポストの設置規制を総 務省は一歩も譲りません。酒税を取り仕切る財務省によって日本 からは主要外国にワインを贈ることができません。カジノも言う ばかりで遅々として前に進みません。理由は、カジノ特区が石原 元知事思惑通り東京で実現すると地域格差が広がるだけ、として 地方議員が足を引っ張るからです。最新技術による魚類養殖も漁 業権が複雑で、海水魚を海の無い地域で高いコストで養殖してい る有様です。利害と利権の絡む規制緩和は望むべくもありませ ん。期待はTPPによる外圧ですが、その時には利権は全て海外 別表3 日銀量的緩和 に持っていかれそうです。

【2014 年後半の投資戦略】

ウクライナ問題と中国ベトナム西沙諸島問題。どちらも軍事対立の可能性が高い深刻な問題です。ウクライナ問題は、ペレストロイカ時に交わしたブタペスト覚書の履行問題ですが、



住民まで取り込んだロシアを止める術はオバマ政権にはありません。又、西沙諸島は米軍の影響範囲外ですので、両国の自制心だけが頼りです。しかし中越戦争で敗れた中国、西沙諸島を力づくにより実効支配した中国、正に因縁の対決です。

2014年後半の投資戦略において地政学、政治パワーバランスを無視してはならないでしょう。何が起こっても円高圧力になりそうです。又、史上最高値にあるNYダウに激震の走るリスクも考慮しなくてはなりません。午年は後半に荒れるという格言を思い出しておきましょう。

有限会社アッシュ インベストメント テクノロジー

ストラテジスト 萩原 淳

このニュースレターのバックナンバーはホームページでご覧になれます。http://www.j-a-a.com/ 禁無断転載 ©Japan Asset Advisors Co.,Ltd. All Rights Reserved 本誌に含まれる将来の予想に関する記載内容は現時点における情報に基づき判断したものであり今後の動向や法改正により変動することがあり得ます。 従って、数値、条件等の真実性、正確性を保証するものではありません。